Hijicho
大阪市立大学新聞

2014.11.5
第30号

Hijicho 大阪市立大学新聞

2面 ◆ 第64回銀杏祭「異次元トリップ」フォトレポート

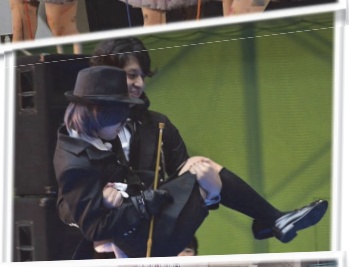
ニュース

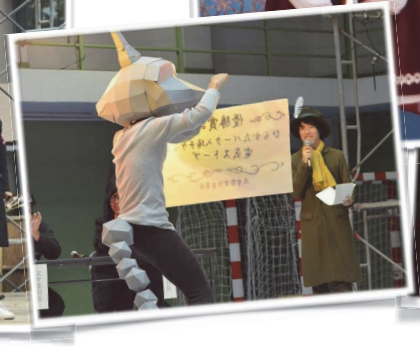
3面 ◆ ボート部初の快挙　全国3位
4面 ◆ 憩いの場へ 「サポニワ」オープン！
5面 ◆ 自転車利用についてのアンケート結果から見る市大生の声

Hijicho公式LINEアカウント
@hijicho で検索！
最新ニュースを配信中！

コラム・連載

6-7面 ◆ choっとカフェログ
市大に心地よい空間を 野のはなハウス
8-9面 ◆ 学情のMacを使おう　第1回 Mac事始め
10面 ◆ 皆既月食 〜秋の天体ショー〜
11面 ◆ 大阪歴史探訪
第五回　あびこ観音 ー日本最古の観音寺ー
12面 ◆ 市大川柳





GUIDE BOOK

異次元トリップ

IJIGEN TRIP

2014年11月1日(土)▶11月4日(火)

出演アーティスト

ガガガSP / a flood of circle / HaKU / カラスは真っ白 / 夜の本気ダンス /
JESUS WEEKEND / フィッシュライフ / Large House Satisf
Tequeolo Caliqueolo / 新井里美 / アキナ / and more

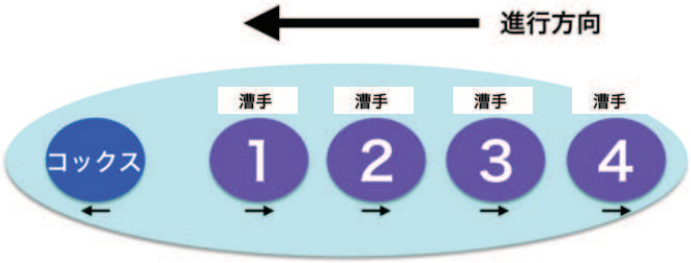
大阪市立大学 第64回銀杏祭

ボート部初の快挙 全国3位

平成26年10月3日(金) ～5日(日) に埼玉県の戸田ボートコースにて行われた第55回全日本新人選手権大会の男子舵手付きフォアにおいて、大阪市立大学ボート部が3位入賞し、銅メダルを獲得した。この全日本新人選手権大会は、大学生は2年生まで、大学生のみならず高校生や社会人も2年目まで出場することのできる大会である。全国規模の大会でメダルを獲得したのは、124年の歴史を誇るボート部史上初のことだ。快挙を成し遂げたボート部2回生の皆さんに話を伺った。

ボート部2回生の皆さん (町田写す)
写真後列左から松井亮介さん、渡瀬翔太さん、島 広一さん、岩井 翔さん、神田耕平さん
前列左から松井彩さん、舩橋可奈さん、馬場千寿さん、上原直子さん、岡本佳那さん

※ボートには1人乗り、2人乗り、4人乗り、8人乗りがある。今回は4人乗り (男子舵手付きフォア) の部門での入賞となった。4人乗りといっても実際はボートを漕ぐ漕手の他にコックスと呼ばれる舵を取る選手もボートに乗る。漕手の中でも2番と3番はバランスが安定しており他と比べて漕ぎやすいことから、ボート全体のエンジンとなる。



漕手 (3番) の松井さん (商・2) は、3位に入賞が決まったときの気持ちを「全日本級の大会での入賞は創部以来初めてだったので、嬉しかったです。今回は4人乗りの部門 (男子舵手付きフォア) での入賞だったが、ボートの花形は8人乗りの部門 (男子エイト) なので、次は8人乗りでの入賞も狙っていきたいです！」と表現した。市大ボート部の部員は約100名と規模は他大学と比べても大きいが、経験者が少ないので、その点で他大学と違いがありそこが課題だという。

この大会に向けて夏休みは週に6日練習に励んだそうだ。ボートを漕ぐことはもちろん、陸上でも筋トレやエルゴ (ボートを漕ぐシミュレーションができる機械)を用いるなど、練習は多岐に及ぶ。どのような思いで練習をしていたのかと尋ねると「大会で勝つことだけを考えていました」と漕手 (4番) の島さん (工・2) は目を輝かせた。勝つことへのこだわりが、今回の快挙につながったようだ。水面に浮かんで滑るように進んでいく感じがボート独特で、徐々に経験を重ねていくとスピードが増していくのが快感になっていくそうだ。

3位入賞を果たした選手の皆さん (ボート部提供)

選手を支えるのがマネージャーの仕事だ。女子マネージャーは練習の日のごはんを作り、栄養管理をする。メニューを考えるのも彼女たちの役割だ。女子マネージャーの岡本さんは「練習ではかなりの体力とエネルギーを使うので、しっかり食べて、力になるような食事を心がけています。最近はだいたい10kgのお米を炊いていますね(笑) 」と話した。男子マネージャーは選手の練習に併走し、安全管理やサポートを行う。男子マネージャーは元々選手だった人が多いため、ボートについて精通している。同じマネージャーでも男女でそれぞれの役割があるようだ。

今後の目標について尋ねると、「インカレという全国の大学が出場する大会で決勝戦に出ることだ」と松井さんは力強く答えた。また、女子選手の上原さんは「最近女子の選手が増えてきて、レベルも上がってきていると実感しているので、男子がすばらしい結果を残している流れに乗って、女子も大会で良い成績を狙っていきたいです」と述べた。

取材中も終始楽しそうに、時には真剣にボートについて語ってくれたボート部員。彼ら彼女たちの、真っ直ぐな思いがボート部の原動力になっているのだろう。数ある市大の部活の中でも伝統のあるボート部。今後も彼らの活躍に目が離せない。

関連URL
大阪市立大学ボート部HP
http://ocurc.org

町田和紀 (Hijicho)・石原奈甫美 (Hijicho)

憩いの場へ 「サポニワ」オープン！

学生サポートセンターの中庭「サポニワ」が11月より開放されるのに先立ち、オープニングイベントが10月31日(金)に行われた。

除幕式の様子

サポニワは、学生の手で制作が進められてきた。昨年の10月にデザインのコンペティションが開かれ、公募により集まった12作品の中から3作品が賞に選ばれた。受賞作品の各々の大事にしたいところを組み合わせ、現在のデザインに辿り着いたという。

この空間の大きな特徴は、一見無造作に置かれたブロックと、宙に浮かぶテントである。これらの設計にも多くの試行錯誤があった。ブロックは、設計から実際の制作に移る時点で、コストの削減方法を詰める必要があったそうだ。なおこれらのブロックは、テーブルとして使うもよし、ベンチとして使うもよし、使い方は利用者の自由な発想に任されている。白いテントは、制作者の「影を落としたい」という思いと、フワフワとした見た目による軽量感の演出を狙いとしている。ロープの細さや布のたわみ具合などに苦労したものの、外国から発注した大きなブルーシートを使い実寸大の模型を作り、確認を行うことで、開放的な空間を実現したのだそうだ。

「サポニワ」という名称や親しみやすいロゴも、学生によって考案された。「名前の言いやすさは使いやすさにつながると期待している」と、名称に込めた思いを制作者の一人である安田康佑さん (工OB) は話してくれた。

またイベントでは、使い方の実演として大阪市立大学交響楽団による生演奏が行われた。弦楽器が奏でる優雅な音楽が中庭に響いた。

交響楽団による演奏

サポニワは、平日は自由開放され、昼食を食べる場や休憩時間にくつろぐ場として使うことができる。また申請すれば占有使用ができ、イベントスペース、研究発表、サークルの練習や成果発表の場として利用できる。制作者の一人、塩原さん (工・修2) は、「何かやりたいけれど場所がないときに、『サポニワがある！』と思い出してもらい、この場所が活性化されれば」と話した。

「サポニワ」制作チーム (左から 渡辺匠さん、久保晶子さん、大坪良樹さん、芥隆之介さん、塩原裕樹さん、安田康佑さん)

11月3日開催のホームカミングデーイベント「キャンパスツアー」の中でも、サポニワの案内が行われる。市大生の手で作られたこの場所が、市大の新スポットとして愛され、活用されるようになることを願う。

文・写真：長澤彩香(Hijicho)

自転車利用についてのアンケート結果から見る市大生の声

今年4月よりキャンパス内の自転車の走行が規制されたのを受けて、Hijichoが独自に行った「杉本キャンパス内自転車利用についてのアンケート」から得られた結果・意見から、市大生の生の声を紹介し、それをもとに自転車走行規制問題や休憩時間延長についてどのように感じているのか分析していきたい。
注：紙面の都合上、一部の項目を省略しています。詳細なアンケート結果はHijicho Webをご覧ください。

アンケート実施期間：2014年8月11日～10月3日　アンケートはWebサイト上にて行った。(総回答数 326人)

①あなたの所属を教えて下さい
Hijicho の読者層の学生が多いこともあり、回答者 (326人) のうち96% (313人) が学生からの回答であった。学生の中では下回生よりは上回生、理系よりは文系の学生のほうが回答者は多かった。やはり上回生のほうが市大にいる期間が長い分、関心は高いようだ。
※1月に大学側が行ったアンケート (以下大学側アンケート) は回答者413名 (うち学生359人、教職員54人) であった。

②あなたは大学で自転車を利用しますか
自転車を利用する学生は市大全体で2000台 (登録されている自転車) ほどとのことなので、市大全体の自転車利用者の割合は25%ほどと推測される。このアンケートの結果を見ると7割近くが自転車を利用している人であるため、やはり自転車利用者のほうが関心が高いことがうかがえる。
※大学側アンケートは回答者のうち利用者が71.2%、非利用者は28.8%であった。

③大学での自転車利用の頻度はどれくらいですか
利用者うちの約2/3がほぼ毎日、日常的に自転車を利用していることがわかる。

④大学での自転車利用の主な用途は何ですか
自転車の利用者のうち4割弱が通勤・通学用として自転車を使っている。キャンパス内移動の為に自転車の使っている人も24%もいた。様々な用途で自転車が利用されていることがわかる。
※大学側アンケートは通勤通学用が44%、学内移動用が24%

⑤キャンパス内における自転車のマナーについてどう思いますか
悪い・どちらかというと悪いを合わせると36%、悪くない・どちらかというと悪くないは64%の半数強にとどまった。回答者の多くはマナーが悪いとはあまり感じていないようだ。なお自転車のマナーについて自転車を利用している人としていない人で分類した結果は、自転車を利用している人より利用していない人のほうがマナーが悪いと感じている人の割合が多いようだ。ただし、自転車利用者のうち約65%、非利用者のうち約60%はマナーが悪くない・どちらかというと悪くないと回答した。
※この質問に対応する大学側アンケートの結果 (問9a:事故の危険性、b:通行の邪魔、c：走行マナー、d:駐輪マナー、e:景観への影響)がマナーが悪いとの否定的意見が多かった (50%～70%)　ので比較してみると対照的な結果となった。

⑥キャンパス内の自転車のマナー改善のために何らかの対応は必要だと思いますか
何らかの対応が必要・どちらかというと必要が49%、必要でない・どちらかというと必要でないが51%でほぼ半々である。

⑦自転車のマナーを改善し、安心安全のキャンパスを実現するためにはどのような対応をとるべきだと思いますか
安心安全のキャンパスの実現に向けて回答者が最も必要であると感じていることが「駐輪場の充実」である。大学側が自転車の数と駐輪場の容量を減らすことに苦心していることとは対照的である。他に多かった意見としてはキャンパスに出入りできる門の増設・拡張、危険運転をするものへの注意・厳格な対応、登録されていない自転車への厳格な対応、事故が多発する門付近のみ自転車の走行を禁止する、などがあげられている。多くの人は駐輪場が不足し、キャンパス内に自転車があふれている状況や門の少なさ、狭さなどが「キャンパス内の危険」の根本の原因と考えているようだ。
また、全員一律に規制され、ルールをきちんと守っている者も不利益を被る施策よりも、一部のマナーの悪い学生を規制することを望んでいることがわかる。大学側が計画しているキャンパス内の自転車走行禁止を挙げた人はごく少数であった。
※大学側アンケート (問7:駐輪場の数について) の結果は普通が約半数、少ない・やや少ないが約40%であった。

⑧キャンパス内に乗り入れる自転車を減らすことは、安心安全のキャンパス実現のために必要不可欠だと思いますか
多くの回答者が安心安全のキャンパスを実現することに、自転車の数を減らすことはさほど効果的でないと考えているようだ。必要・どちらかというと必要は14%にとどまった。
※大学側アンケート (問8:学内の自転車の数について) の結果は多い・やや多いが60%、普通が36%

⑩４月より実施されているのキャンパス内自転車走行規制を支持しますか
支持しない・どちらかというと支持しないが90%を超え圧倒的であった。多くの学生が今回の施策に何らかの不満を持っているようだ。

⑫今回の自転車走行規制や今検討されている様々な施策（休憩時間延長、通勤通学用の自転車のみ登録を認めるなど）やその周知方法についてどう思いますか
こちらも80%以上の人が支持しない・どちらかというと支持しないという結果なった。今回の施策についての大学側の周知方法にも問題があると感じた人が多いようだ。

⑭今年の1月にキャンパス内の自転車の在り方検討するため、学生・教職員に自転車についてのアンケートを実施していましたが、アンケートを実施していたことは知っていましたか
当時アンケート実施を知っていたのはわずか13%。多くの人が事後で知ったということを示している。大学側はアンケート実施に当たり十分な周知を行なえていなかったということは明白である。

⑮このようなキャンパス内自転車走行規制ができた背景について理解していますか
この規制ができた背景については過半数以上の学生が理解しているようだ。しかし理解できていない人が43%もいることも見過ごせない。大学側は当事者である学生に対し、説明する場を設けるべきだろう。

⑯自転車走行規制が施行されて４か月余りがたちますが、安心安全のキャンパスが実現されたと思いますか
多くの人が規制実施後もこれまでと変わっていないと感じているようだ。約半数が実現されていないと回答し、どちらかというと実現していないと思うも加えると80%近くに及ぶ。

町田和紀 (Hijicho)

chOっとカフェログ

市大に心地よい空間を
野のはなハウス

『研究と実践、地域と　大学・学生をつなぐ場でありたい』

「社会福祉法人野のはな」理事の吉川さんは話す。「社会福祉法人野のはな」は、大阪市立大学学術情報総合センター1階のイタリアンレストラン「野のはなハウス」の経営主体だ。野のはなハウスは様々な顔を持つレストランである。

イタリアンを中心としたレストランであることはもちろん、生活科学部の演習授業とコラボする等の、研究分野とも関わりを持つ。入り口のガラスドアも演習授業の中で生まれたデザインだ。また以前からあった「学生同士や学生と教員が気軽に集い、語れる場がほしい」というニーズに応える場にもなっている。吉川さんは「地域の居場所にもなればいいいな、と考えています。いろんな分野が交わり何かが生まれるようなプラットフォームにしていくことが目標です。」と話した。

野のはなハウス内観 (野のはなハウス提供)

市大でほっと一息つきたいときにぴったりの空間が、野のはなハウスにはある。程よいリズムのBGMと広々とした空間。店内にはシチュエーションに応じて快適に過ごせるよう、様々な工夫が凝らしてある。例えば1人で気軽に来ることができるよう窓辺の席にはコンセントがあり、OCUNET (学内無料Wi-Fi) が利用できる。少人数でゆっくり話をしたいときは、店内奥のソファ席がぴったりだろう。真ん中にある大きなダイニングテーブルはパーティーでも大活躍だ。野のはなハウスは人数に応じて、貸し切りパーティーでも利用できる。

野のはなハウスは、障がい者 (野のはなでは「利用者」と呼んでいる。以下、利用者) の作業所としての側面も持つ。座席に番号を付け、声かけしたり、動きやすいような工夫がされているので、多様な人々が働くことができる。利用者の前田茂さんは「スタッフがとても和気あいあいとしていて、アットホームな職場です。シェフのまかないもおいしい！」と楽しそうに話す。

写真左から 利用者の岸本郁美さん、前田茂さん

学術情報総合センターオープン当初から1階のレストランで働く楠木久美子さんは野のはなハウスの内装がとても気に入っていると話す。「お客様からもすごく好評です。開放的でとても落ち着いた空間になっていると思います。おすすめはドルチェセットを食べながらゆったりすることですね。ドルチェはイタリア語でデザートのこと。手作りケーキとフルーツ、ドリンクがついたお得なセットです。」

ドルチェセット (野のはなハウス提供)

10月20日から新メニューも始まった。シェフの荻田さんによると、前菜を増やし、コース料理を充実させたのだそうだ。石窯で焼き上げた本格派のピザも人気が高い。シェフのおすすめは、お酒 (ワインか生ジョッキ) と本日の前菜3種盛りの「ほろ酔いセット」だ。ごはんを食べるのはもちろん、おつまみをつまみながらお酒を嗜むという、大人な楽しみ方もできるのだ。

ほろ酔いセット

野のはなハウスシェフ 荻田さん

心地よい空間をつくり続けている野のはなハウス。次は何が発表されるのか、今から楽しみだ。みなさんもぜひ足を運んでその心地よさを体感してみてはいかがだろうか。

参考URL
野のはなハウス
http://nonohanahouse.rest/index.htm

文・写真：石原奈甫美 (Hijicho)

学情のMacを使おう

第1回 Mac事始め

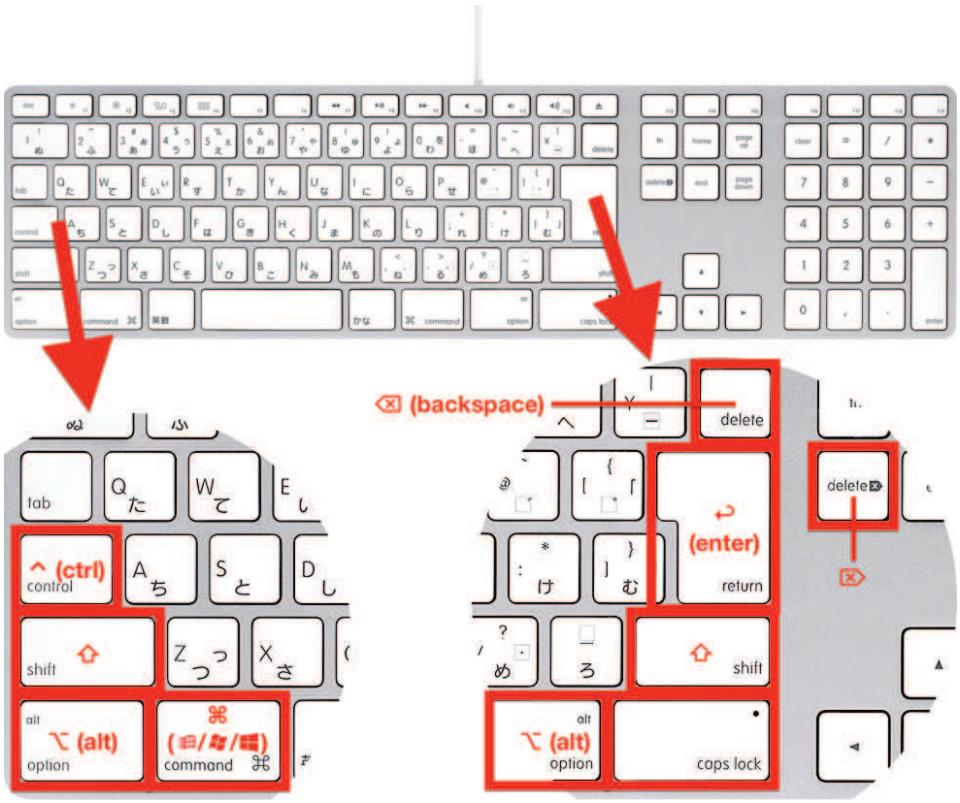
今夏、学術情報総合センターのパソコンが更新され、Windowsに代わりMacが導入された。新しいパソコンは、以前より画面が大きくなり、性能も向上してより快適に利用できるようになった。しかし、Macを使ったことのない人の中には、Macと聞くだけで何となく敬遠してしまう人もいることだろう。実際、Macの操作はWindowsと異なるところがあり、普段Windowsしか利用しない人々が何も知らずにMacに触れると戸惑ってしまうことは避けられない。Hijichoでは、そんな人たちが気軽にMacを使えるよう、Macの使い方や知っておくと便利な機能を連載していく。学情のMacを前に、実際に試しながら読んで頂けば、より理解が深まること請け合いである。
注：紙面の都合上、一部掲載していない項目があります。Web版ではより詳細な図や写真と共に詳しい解説を掲載していますので、ぜひご活用ください。

Macとは

Macは、iPhoneなどで有名な米国アップル社が販売しているパソコンである。1984年に最初の製品が登場した (Windows が登場したのは 1985年のことである)。ちなみに「Mac」は愛称であり、最近は殆ど使われないものの、正式な名称は「Macintosh」 (マッキントッシュ) である。Macには、「OS X」(オーエステン) [※] というOS (オペレーティングシステム) が初期搭載されているが、学情のMacのようにWindowsをインストールして利用することも可能である。
※: 以前は Mac OS X という名称だった。

学情のMacとその周辺機器

学情に導入されているMacのモデルはiMacである。iMacの電源ボタンや各種ポートは背面にある。ただし、学情のiMacは電源ボタンを押す必要は無い。また、USB 3.0ポートが1つ延長されており、背面に手を回さなくても利用できる。



学情のMacを使う準備

スリープを解除する

Macは使用されていない時など、しばらく操作を行わないと自動的に画面が消灯するスリープ状態になる。キーボードのいずれかのキーを押すとスリープを解除できる。

ログインする

学情のMacのスリープを解除すると、画面中央に『名前』『パスワード』と表示されたテキストフィールド (入力欄) が表示される。『名前』の部分に学籍番号 (小文字) を、『パスワード』の部分にパスワードを入力して return キーを押すとログインされる。
なお、最初の利用時には学情のパソコンを利用する上での注意事項『システム利用許諾』が表示されるので、よく読んだ上で承諾できる場合のみ 承諾 ボタンをクリックすること。なお、最初の利用時には学情のパソコンを利用する上での注意事項『システム利用許諾』が表示されるので、よく読んだ上で承諾できる場合のみ「承諾」ボタンをクリックすること。

ログアウトする

画面の一番左上にあるアップル (apple) メニューから「 (名前) をログアウト…」を選択すると、今すぐログアウトしてもよいか確認が表示される。 ログアウトボタンを押せばログアウトする。なお、 ログアウトボタンを押さずに放置していても、60秒後には自動でログアウトしてしまうので注意が必要である。ログアウト時にはアプリケーションを終了させておく必要は無いが、Windowsはシャットダウンしておいた方がよい。『再ログイン時にウインドウを再度開く』にチェックを入れておくと、次回のログイン時、現在開いているアプリケーションやウインドウが同じ状態で開かれる (対応していないアプリケーションもある)。
ログアウト後、iMacはモニタの電源だけを切ることはできないので、そのまま退席すればよい。

Macの基本操作 その1

ここからは、Macの基本的な操作で、Windowsユーザがつまずきそうな点について紹介していく。

アプリケーションを終了する

Windowsのプログラムは、一般的には開いているウインドウをすべて閉じると終了する。しかし、OS Xのアプリケーションの多くはそうではない。終了するには、メニューバーの、アプリケーションの名前のメニュー (アップルメニューの右) から (アプリケーション名) を終了 を選択する。

ひらがなの入力と英字の入力とを切り替える

スペースバー横の、 英数 キーを押すと英字の入力に、 かな キーを押すとひらがな (日本語) の入力に切り替わる。

スクロールの方向を変更する

OS Xの初期設定では、マウスのスクロールホイールを動かしたときにスクロールされる方向が逆になっている。『システム環境設定』アプリケーションを開き、上から2段目にある『マウス』を開いて『スクロールの方向: ナチュラル』のチェックを解除すると、スクロールの方向をWindowsと同じ方向に変更することができる。

印刷を行う

ファイル メニューから プリント… を選択すると、印刷の設定パネルが表示される。通常は何も変更する必要は無いので、そのままパネル右下の プリント ボタンをクリックすればよい。すると、プリントシステムのウインドウが表示されるので、 OK をクリックすると印刷データが送信される。

予告

次回は、もう少し高度な基本操作と、学情のMac上でWindowsを使う方法を紹介する。お楽しみに。

おことわり

記事中では、2014年10月現在学術情報総合センターに導入されているMac環境 (機種: iMac、OS Xのバージョン: 10.9 (Mavericks)) を前提に使い方を紹介しています。機種やOS Xのバージョンが異なると、使い方は異なる場合があります。
また、この記事に記載されている操作を行っても、通常の使用状態においてはいかなる障害も発生しないことを確認していますが、万一障害が発生して損害が発生したとしてもHijichoでは責任を負えませんのでご了承ください。
なお、詳細な操作方法は ヘルプ メニューからMacのヘルプを参照するか、以下のページから『5階情報処理PCルームの利用手引き』をご覧ください。

5階情報処理PCルームの利用手引き — 大阪市立大学情報処理教育システム
http://www.ex.media.osaka-cu.ac.jp/info/20140919.html

より詳細な解説は http://hijicho.com/?p=16174 まで

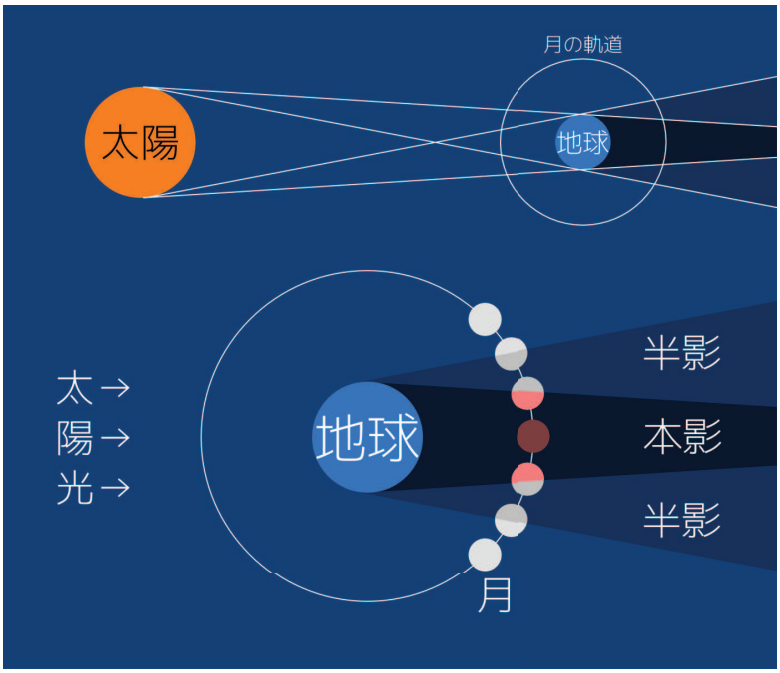
新宅慶騎 (Hijicho)

皆既月食 ～秋の天体ショー～

2014年10月8日、日本全国で皆既月食が観測された。これは2011年12月10日以来、約3年ぶりの出来事である。本記事では月食の仕組みと種類、皆既月食における色の変化、当日の観察を中心に取り上げる。

月食の仕組み

月食は、地球の影の中に月が入り、月が欠けて見えたり月の色が変化したりする現象である。太陽に照らされた地球の後方に出来る影に月が入ると、地球からは月が欠けていくように見えるのだ。このとき太陽・地球・月は一直線に並んでいるので、月食は必ず満月のタイミングで起こる。しかし、満月になるたびに月食が起こるわけではない。なぜなら、月の公転軌道が地球の公転軌道に対して水平面で5度ほど傾いているからである。この傾きのために、月はたいてい地球の影に入らず、満月となって見えるのだ。



月食時の天体の様子 (図＝Hijicho作成)

月食の種類

月のすべての部分が本影（地球によって太陽の光が完全に隠された部分）に入る場合を皆既月食、一部分だけが本影に入る場合を部分月食という。皆既月食の前後にも部分月食が起こっており、月が地球の影の中を動いていくにつれて満月→部分月食→皆既月食→部分月食→満月、と月の見え方が変化していく。月食の際は普段見られない形の月が見られるのだ。

皆既月食における色の変化

皆既月食の際、月は地球の影に完全に入ってしまっているので、普段見えている満月が全く見えなくなってしまうのではないかと思う人がいるかもしれない。しかし実際、皆既月食の時は普段とは違う赤みがかかった色の月が見えるのだ。この理由は2つあり、太陽光が地球の大気を通過する時に屈折して月まで届くことと、大気中で散乱されにくい赤色の光が月面を照らすことである。

ただし、大気中の水蒸気やチリの量の違いによって皆既月食時の色は変わるので、いつも同じ色になるわけではない。月の色は実際に見てみるまでは分からないというある種のロマンがあるのだ。

当日の観察

月食の起きた当日、筆者も学情庭園アステリア (以下、屋上) から月を見た。当日は19:24～20:24に皆既月食となったため、19:45頃に屋上に行った際には、東の空にうすい赤銅色の月を見ることができた。そして、屋上には月を見に来た大勢の人が秋の天体ショーを楽しんでいた。普段、屋上は20:00まで開放されているが、この日は特別措置として月食終了まで開放された。

筆者も同じように月を眺めていたが、この上なく爽やかな気分になることができた。それは美しい月食を見られただけではなく、北の方角に広がる大阪の夜景、そして涼しげな秋風をも同時に体験することができたからだ。筆者はそれまで何度か屋上に行ったことがあるが、こんなにも爽やかな気分になったのは初めてであった。屋上は昼も夜も気分転換にオススメである。今春から開放された屋上を大いに利用してもらいたい。

最後に、次回の月食について触れておきたいと思う。次回の月食は、2015年4月4日に起こり、今回と同じように皆既月食となる。皆既状態が長く続いた今回とは異なり、たった12分しか皆既状態にならないが、観測できる時間が21:00前後であるので皆既月食を見るチャンスは十分にあるだろう。

参考URL

AstroArts「2014年10月8日　皆既月食」特集サイト
http://www.astroarts.co.jp/special/20141008lunar_eclipse/
名古屋市科学館　http://www.ncsm.city.nagoya.jp/study/astro/

山原怜太朗(Hijicho)

大阪歴史探訪

第五回　あびこ観音 ―日本最古の観音寺―

古代には難波宮がおかれ、江戸の世には天下の台所として栄え、明治以降には近代都市として発展してきた歴史あるモダン都市 大阪。ここではそんな大阪の歴史に焦点を当て、知られざる大阪の魅力を発掘すべく、大阪の歴史にまつわるいろいろなものを紹介していこう。

今回は、日本最古の観音菩薩の寺といわれる、あびこ観音こと大聖観音寺を紹介する。

あびこ観音正門

まずは、あびこ観音の創建にまつわる話を紹介する。寺伝によれば、古代に依羅吾彦（よさみのあびこ）の一族が百済から贈られた一寸八分（約5.5cm）という小さい観音像を信仰していた。その後聖徳太子が当地を訪れたとき、観音のお告げを聞いて大聖観音寺を創建したのが始まりだと伝えられている。本尊伝説については、諸説あるが以下のようになっている。聖武天皇が神仏祈願中にお告げを聞き、僧の行基を泉州水間の滝につかわしたところ、滝から一寸八分の観音像を発見し、これを本尊として水間寺が創建された。その後、応仁の乱で水間寺が焼失し、本尊が高野山や江戸円明院に移されたが、慶安年間に当寺の第44世法印盛長が寺に迎えたとされるものだ。

仏教伝来初期に、畿内やその周辺の寺院は大きな権力を持つ天皇や中央貴族を対象とした寺として機能し、また地方にも仏教を普及させる拠点となっていたとされる。このあびこ観音も古来から皇族・武家が尊崇したとされ、寺宝として後深草天皇や楠木正成、足利義満、豊臣秀吉らゆかりの品があったと伝えられている。しかし、これらは明治14年の火災によって全て失われた。現在、私たちが目にすることのできるあびこ観音は明治30年に再建されたものである。

写真上＝観音像、下＝本堂

現在でも、厄除観音として参詣者が多く訪れる。記者も実際に現地に赴いた。平日の昼にもかかわらず参詣者がおり、人々に愛されるお寺であることが伺える。敷地内をぐるっと回ってみるとなかなかの広さがあった。本堂の裏を見ると観音像が数十体並べて祀られていた。また、本堂の提灯に吾彦観世音 (注1) と書かれており、観音像を贈られたという依羅吾彦の名残だと思われる。また、毎年2月1日から7日に行われる節分厄除大法会では参詣すると厄難を免れると伝えられており、出店も並ぶなどして大いに賑わう。

大学から徒歩で行くことのできるあびこ観音。講義の空きコマなどに訪れて、聖徳太子や聖武天皇のいた古代に想いを馳せてみてはいかがだろうか。

注1：観世音とは観音様のこと。

参考文献

財団法人大阪都市協会，『住吉区史』，（平成8年・住吉区制七十周年記念事業実行委員会）
山崎隆三，『依羅郷土史』，（昭和37年・大阪市立依羅小学校創立85周年記念事業委員会）

文：古迫 肇 (Hijicho)・桑原 柚 (Hijicho)
写真：桑原 柚 (Hijicho)

Hijicho、川柳募集はじめました。

大阪市立大学新聞では、市大生の声や想いを大学内で共有すべく、**市大や市大生の生活**に関する**川柳**を募集しています。毎月テーマを設け、それに沿って優秀賞などの選考を行い、**翌月の紙面** (web版等含む) にて発表させていただきます。
記念すべき初回となる11月号では、テーマ『**銀杏祭**』に合わせて多くのご応募をいただきました。ありがとうございました。

市大川柳

金賞

作り売り　食べて笑った　輝いた
PN　はるまき

選考委員のコメント
銀杏祭を本当に楽しんだフレッシュな気持ちが感じられます。

銀賞

立ち止まる　鳴呼銀杏のにほひかな
PN　いちだいこぱんおの

選考委員のコメント
日々の生活に追われながらも、もうすぐ銀杏祭が近づいていることが婉曲的に表現されているのが良いですね。

季節先取りで賞

クリスマス　イエスキリスト　ヘルプミー
PN　市大なんでも相談室

選考委員のコメント
クリスマスが近づく頃の切ない心情を軽快に描いていて印象的でした。

来月、12月号のテーマは 『**白**』 です。
読者の皆様、ぜひぜひ奮ってご応募下さい。

《選考基準》
・テーマに沿っていること。
・市大、もしくは大学生の生活に関わる内容であること。
・五七五を目指していること。
この三つを基にHijichoの部員が選考致します。

《募集期間》
12月号分 (テーマ『白』)
2014年11月1日から12月20日まで

《募集要項》
件名に市大川柳、本文に所属・氏名 (ペンネーム可) を
明記の上、hijicho@gmail.comまでお送りください。
※Hijichoが選んだテーマとは異なるものでも構いません。
※作品は、紙面やwebに掲載させていただくことがあります。